

平成26年度

第1回 認知症地域支援体制推進 全国合同セミナー（1日目）

～認知症の本人と家族を地域で支える体制を築いていくために～

2014年7月22日

認知症介護研究・研修東京センター
（進行：研究部 永田 久美子）

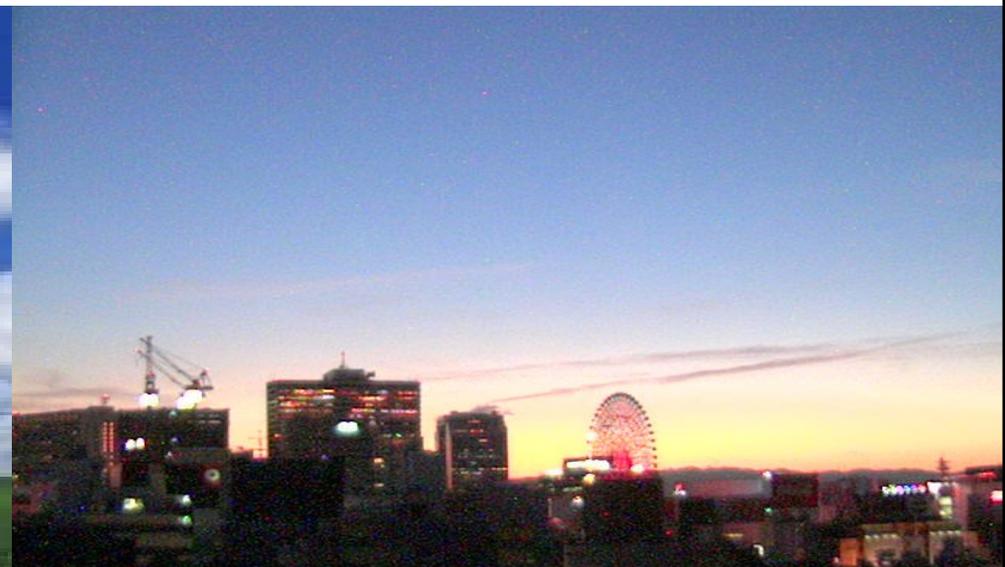


ようこそ！ 全国合同セミナーへ



吉祥寺・井之頭公園

認知症になっても
住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるように。
北海道から沖縄まで、すべての市町村で。



平成26年度第1回合同セミナー参加者概要

区分	参加自治体数	参加人数
都道府県 (認知症疾患医療センター含む)	21	29人
市区町村 (地域包括支援センター、事業者等含む)	102 * 32都道府県から	165人
合計	-	194人

*「参加者一覧(都道府県)」参照

*「1日目グループ一覧」参照

認知症地域支援体制推進 全国合同セミナーの目的

全国の自治体が、オレンジプランに基づく各自治体としての認知症施策を円滑に企画・運営し、地元で暮らす認知症の人が初期から最期まで安心してよりよく暮らしていくことを支える地域資源連携・支援体制づくりを着実に進めていくことを促進する。

(厚生労働省老発0709第8号)

合同セミナーで

これからの
国施策の
方向性、
最新情報を
知る。

全国各地の
取組み事例を
参考にしながら
行政の役割・
ポイントを
(再)確認する。

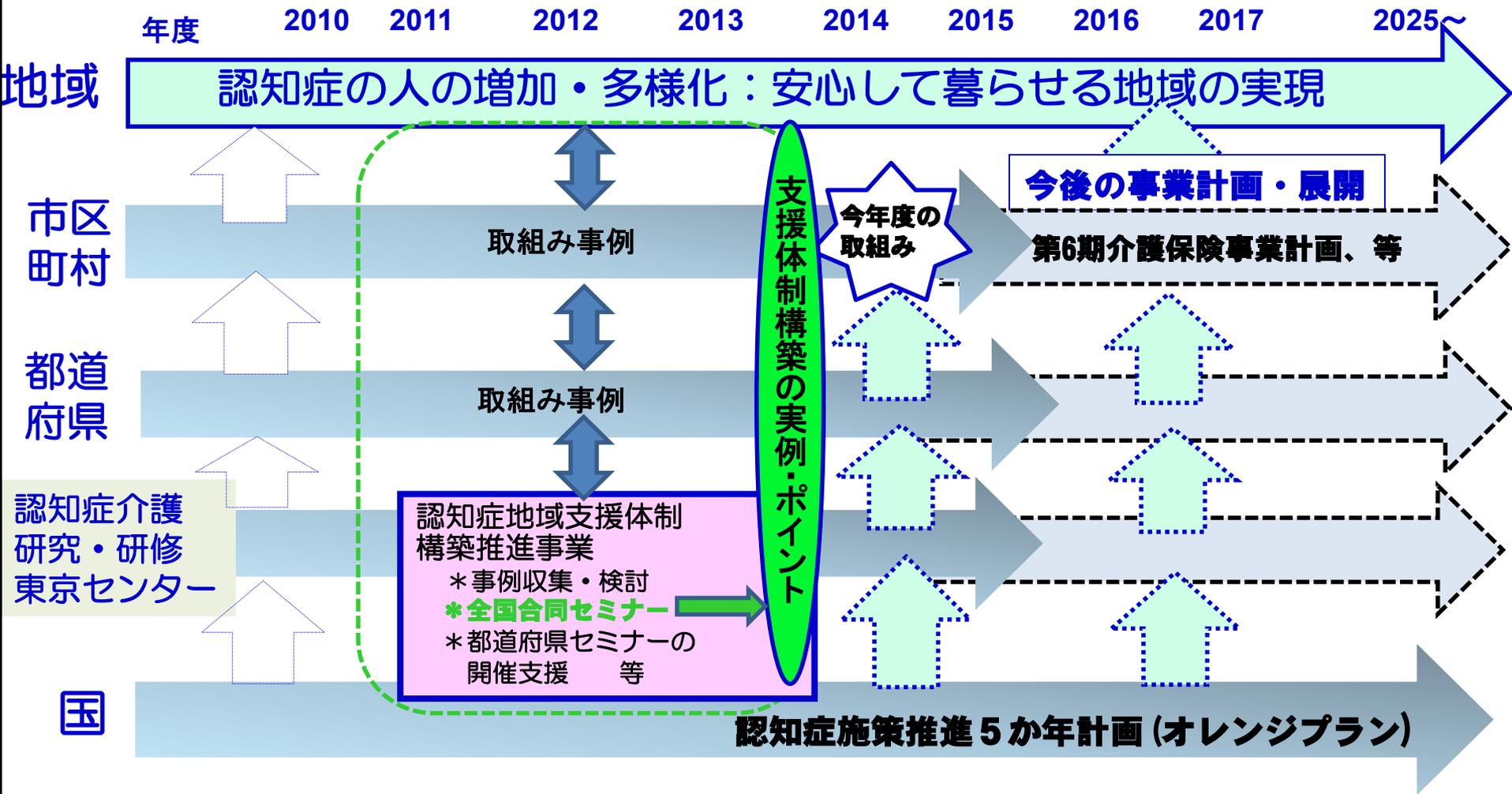
全国各地の担当者等
との情報・意見交換
を通じて、自地域
の今後のあり方・
補強策等を具体的に
検討する

自地域で

- * 情報共有
- * 対話・討議
見直し
具体策補強
- * 取組みの
推進へ

ネットワーキング

全国合同セミナーの位置づけ



地元で暮らす一人ひとりの本人・家族に行き届く支援にむけて
⇒都道府県・市区町村・地域包括支援センター等が
一体となって重層的な取組みの推進を。

1. これからの認知症施策の方向性

認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）の
進捗状況と今後の展開

厚生労働省 老健局 高齢者支援課
認知症・虐待防止対策推進室

2. 認知症地域支援体制づくりを着実に進めるための ポイントと自治体担当者の役割は何か ～全国の実践事例をもとに～

1) 取組み事例に学ぶポイントと自治体担当者の役割のダイジェスト

認知症地域支援体制づくりを

- * 効果的に進めるためには…？
- * 地域での持続発展的な取組みを生み出していくためには…？

認知症地域支援体制づくり

**多種多様な人の協働が必要
息の長い継続的取り組みが必要**

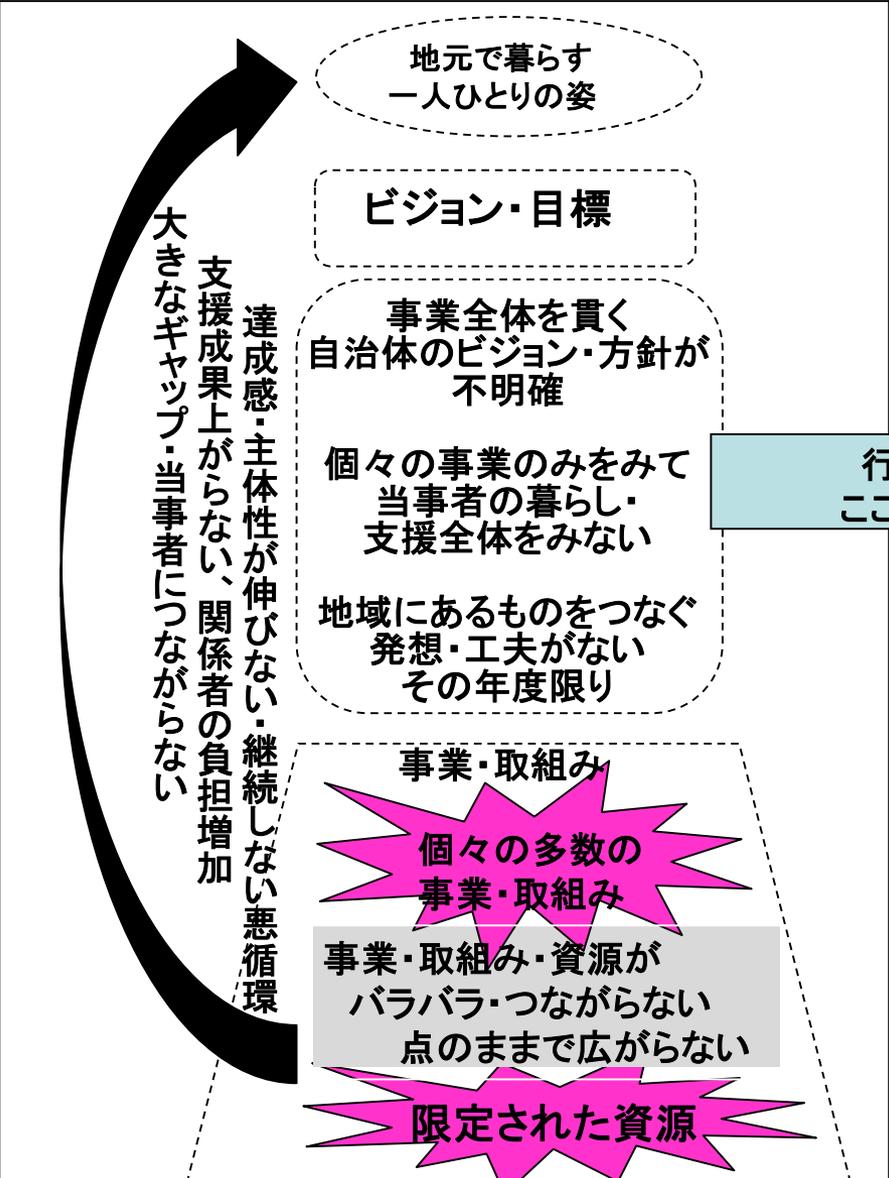
- * 多種多様な領域・人たちがつながっていくためには・・・
- * 年度内、事業期間内のみでの取り組みでおしまいになったり先細りにならないためには・・・
- * 担当者、組織が変わっても、取り組みが継続していくためには・・・

**実際に取組んでいる地域の
経過を通じて見えてきた
ポイント・役割を参考に**

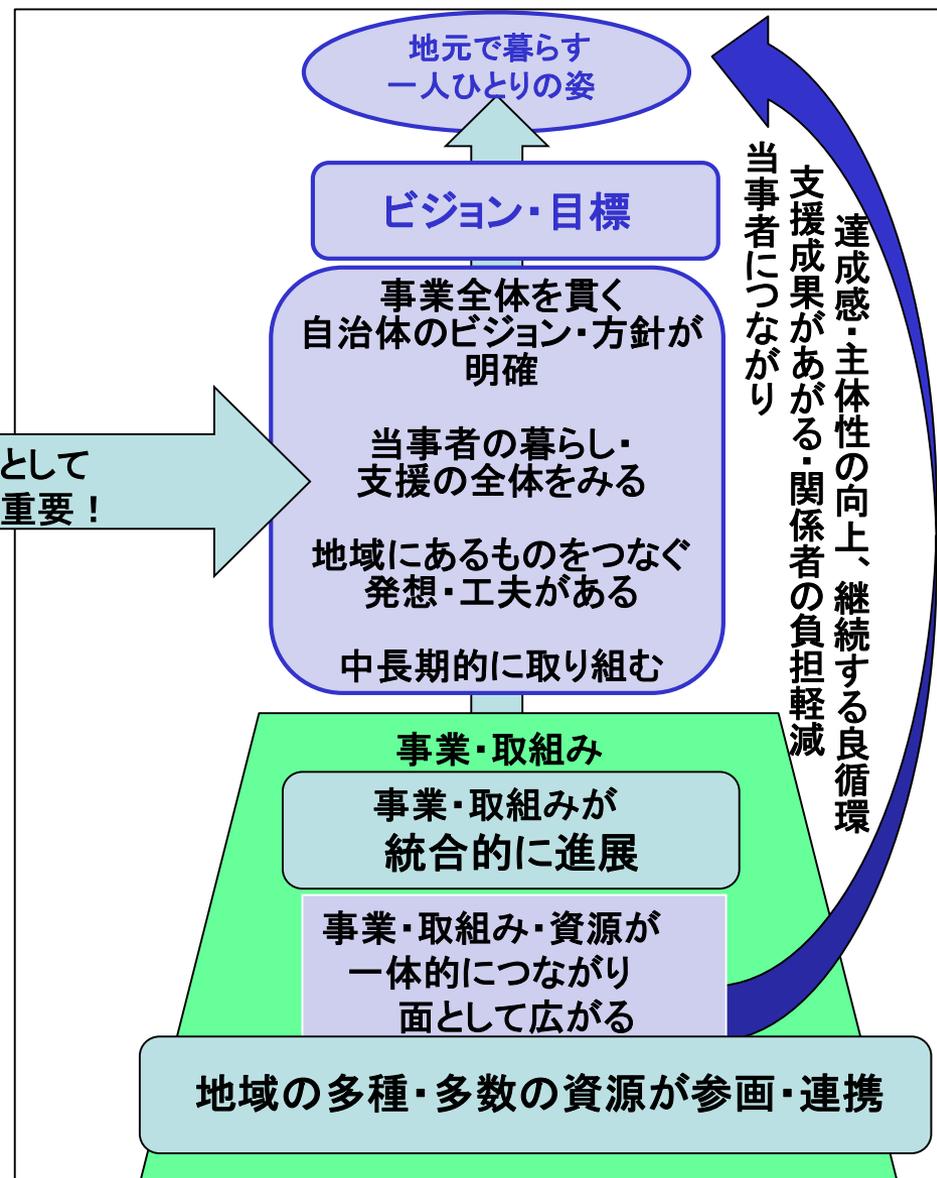
認知症地域資源連携・支援体制作りのあり方(ポイント)の (1)違いはなにか:自治体事例の分析結果より

連携・地域支援体制作りが進んでいない自治体

連携・地域支援体制作りが年々進んでいる自治体

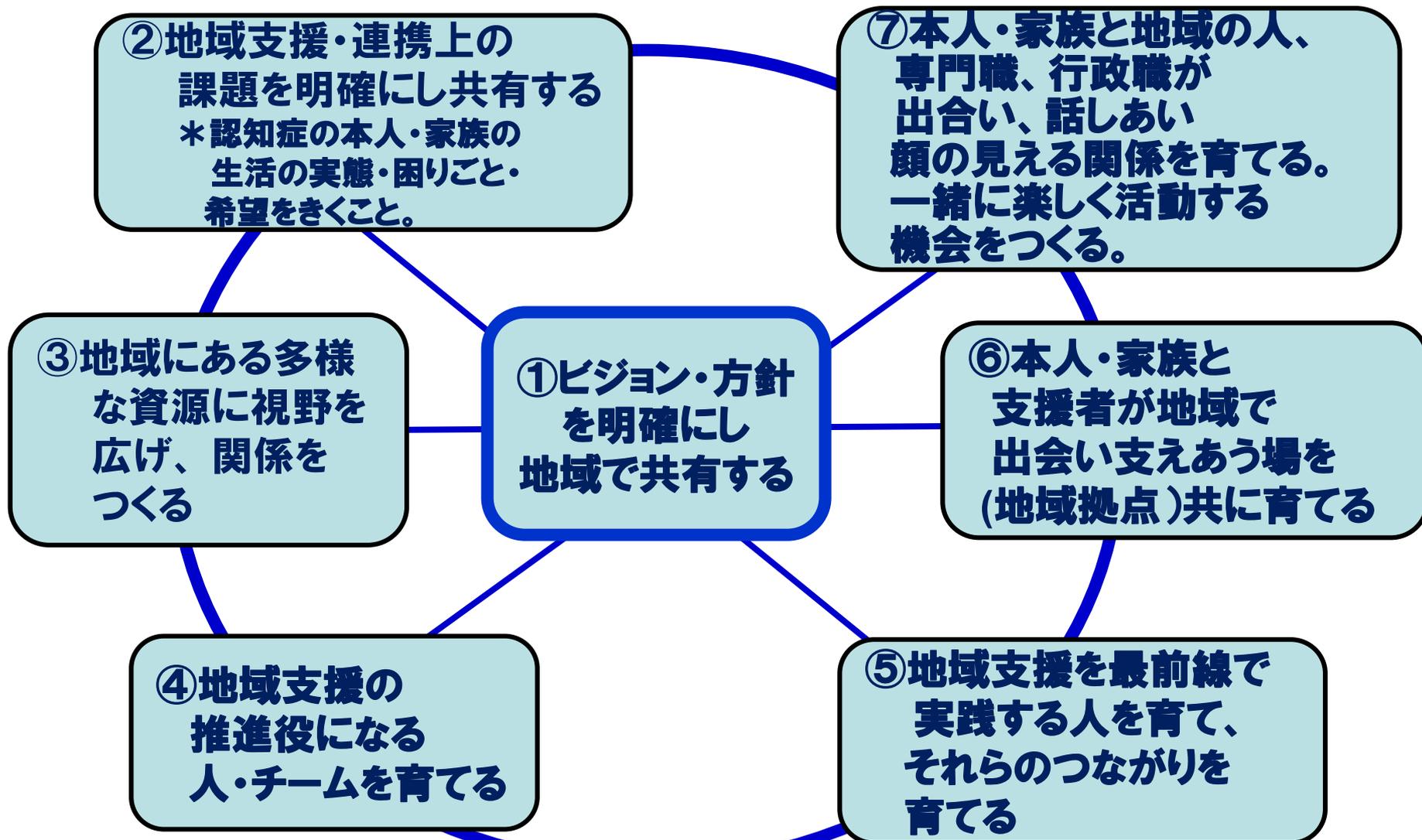


行政として
ここが重要!



これまでの全国各地の取組みにみる

認知症地域支援体制づくりで 重要なポイント（主な点）



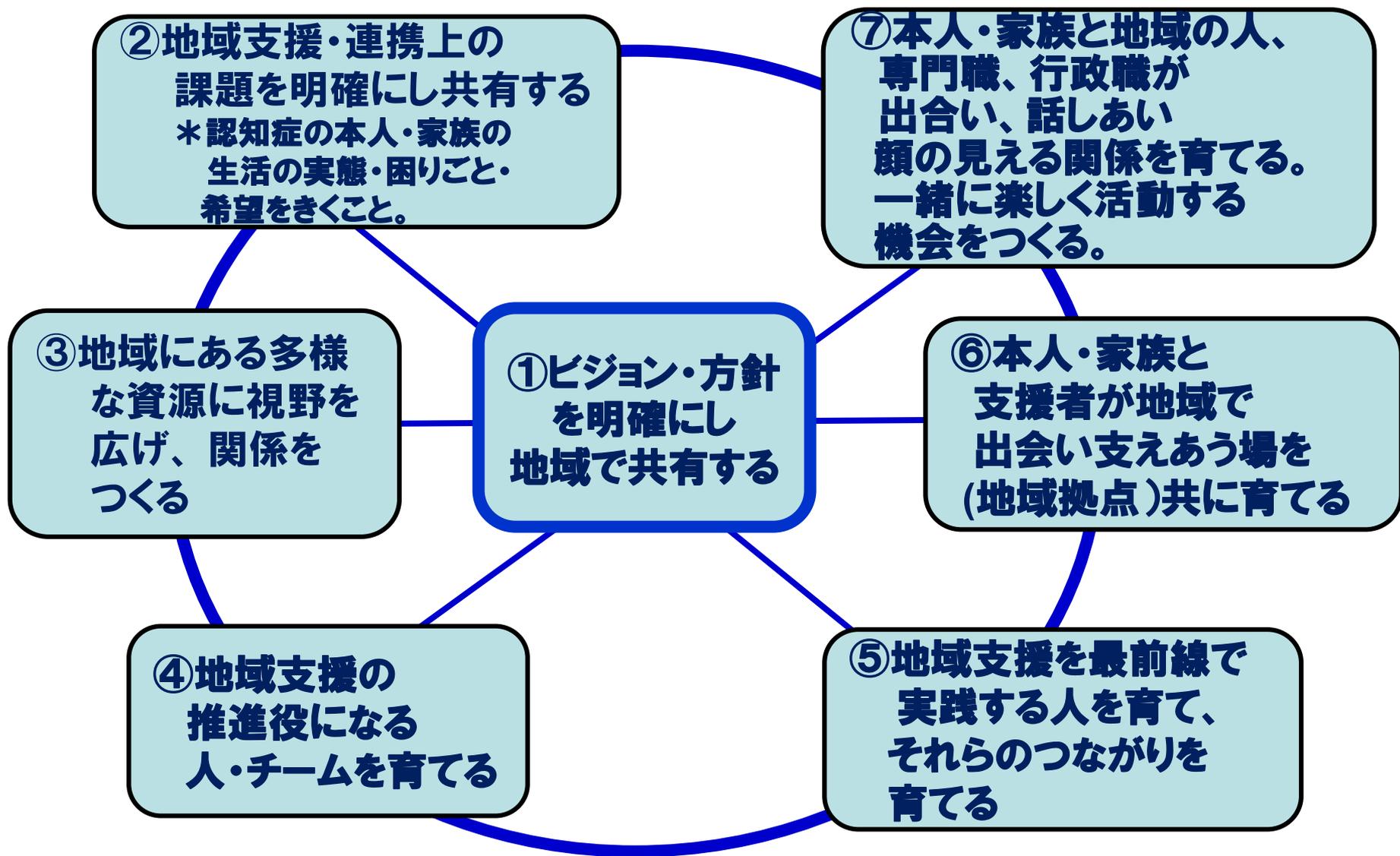
認知症施策の行政担当者、推進する立場の人の主な役割は・・・

- ① 自地域の実態と課題を直視し、「地域で暮らす人」を大切にしたい目標、方針を明確にする。 * 自分ごととして
- ② 自分自身が揺らがない目標にむけて企画し、行動する。
* 迷わず進む旗頭が必要！
- ③ 当事者・関係者・住民の合意形成を図る。
* 同じ方向に向けて力を結集するために
- ④ 自地域の特徴(実態、資源、強味、弱み)を大切に、自地域にいる人・あるものがその力を発揮しながら伸びていけるように支援をする(黒子として)。
* 地元の人材を活かして地域支援の推進人材・チームを育てる。
- ⑤ 自地域にいる人・あるものを、ひたすら「つなぐ」。
* 行政の声かけの威力

- ⑥世の中の動き、他地域の情報・資源(資金源も含め)を仕入れて、自地域に伝える、「自地域のために」活かす。
- ⑦自地域の最前線の取組み、(小さな)成果・努力をキャッチし地域に広く伝え、共有する、蓄積していく。
- ⑧自地域の最前線の状況をとらえ(モニタリングし)、課題・成果をもとに、地元の最前線にあった事業を企画する。
- ⑨中期的な視野で、取組みを継続していけるためのしかけをつくる。
 - ・施策を創る。⇒認知症、高齢者、地域関連の施策の展開
 - ・自治体のより上位の計画に入れるための企画
 - ・地元で暮らし続けている多様な立場の人たちによる推進組織をつくる(支援をする)
- ⑩深刻でなく、希望のあるメッセージを発信する。

これまでの全国各地の取組みにみる

認知症地域支援体制づくりで 重要な自治体担当者の役割（主な点）



2)各市町村が認知症の本人の暮らしの流れを支える地域支援体制を効果的に築くための都道府県としての役割と実際

○京都府が市町村とともにとりくむ認知症地域支援体制構築

京都府健康福祉部高齢者支援課

(京都府地域包括ケア推進機構事務局)

大倉 和子さん

*ワークシートをご活用ください。

～質疑応答～

3) 認知症の本人を行政・多職種・住民が一体的に支える体制を着実に築いていくための市町村としての役割と実際

○行政と地域包括支援センターの協働から
多職種・住民との地域づくり

大阪府岸和田市福祉政策課 庄司 彰義さん

* ワークシートをご活用ください。

～質疑応答～

3. 自地域の取組みの確認と情報交換 ～わが町の取組みの今とこれから～

1) 自地域の取組みの現状と課題の確認

ワークシートで整理してみよう

*まずは、各自が考えてみよう。

1. 京都府、岸和田市の報告を聴いて、
行政担当者の役割や取組みのポイントに関して
自地域との違いを感じた点、自地域に取り入れてみたい点は・・・
2. 自地域で取組んでいる施策・事業や活動を進めていく上で、
行政として解決が必要なことは・・・1点でもいいので具体的に
3. 自地域のこれからの展開にむけて
 - ① 自地域での行政の役割・ポイントは・・・
 - ② 事業や地域のつながり作りに活かしたい自地域の特徴は
 - ③ 自分の立場で、できること・やりたいことは・・・

*この機会に、視野を広げて、伸び伸びと発想してみよう！



*机上の作業としてではなく、
自地域の人達の今の姿、
これからこうあってほしい姿を思い描きながら



2) 他地域の参加者と話しあおう (グループワーク)

○まずは、各自が自己紹介を
お名前、地域、立場、**わが町自慢**(一言でも)

(1) 情報交換

ワークシートに書いたことにそって、
各自が順番に伝えあおう。

(3) 討 議

以下の点に焦点をあてて話しあおう

* 自分の立場でできること・やりたいことは何か
できるだけ具体的に情報・アイディア意見を
交わそう。

☆話しあったことが消えてしまわないように、ワークシートにメモを残そう。
⇒明日の検討の大事な情報原
⇒地元に戻ってからの伝達・共有・推進のための情報原

本人・家族を実際に支えていくための 継続的な認知症地域支援体制づくりにむけて

☆今の時期（7月）は、とても重要！

- ・今年度の本格的なスタート時
- ・来年度以降の計画作り・準備の山場

共通のイメージ（ビジョン、方針、目標）についての
話しあい、合意形成を丁寧にはかりながら。

今日は、そのきっかけ。

このワークを地元を持ち帰って
（少人数からでも）話しあう機会をつくろう。

1日目終了！

ほんとうに、おつかれさまでした。

このあと、この場所で、

情報交換会です。

どうぞ、気軽にご参加ください。

この機会に、つながり、活きた情報収集を！

～ 情報交換会：各地の取組み紹介～

○報告地域の関係者と直接会って、話しあおう。

- ・ 具体的なことを質問しよう。
- ・ 自地域に役立てたい内容・資料等の詳しい説明をきこう。
- ・ 担当者同士ならではの、悩み、アイデアを話しあおう。

○参加者同士、話しあおう。つながろう。

- ・ 今日の感想、気づいた点、深めたい点
- ・ お互いの地域の紹介、具体的な情報交換
- ・ 今後もやりとりできるために
名刺交換、資料等の交換、

☆顔をあわせた機会だからこそこのやりとりを！

おはようございます。

＊座席がわからない人は、スタッフに声をかけてください。

＊昨日のワークシートを、ステージにおいてあります。
都道府県別になっています。各自、お取りください。



吉祥寺：井之頭公園の朝

平成26年度
第1回 認知症地域支援体制推進
全国合同セミナー（2日目）

～認知症の本人と家族を地域で支える体制を築いていくために～

2014年 7月23日
認知症介護研究・研修東京センター



ようこそ！合同セミナー2日目へ。

昨日の4時間の体験は、いかがだったでしょうか？
今日は、同じ地域/比較的近い地域の人たちと一緒に、
情報交換や自地域ですべきこと・できることの話しあいを
深めていきます。

情報を氾濫させたままにせずに、「急がば回れ！」。
「わが地域の地域支援体制」をどう育てていくか、
視野を広げながらに、じっくりと話しあいましょう。

⇒ 帰ってからできること・やってみたいこと、
その進め方を明確にしよう。

⇒ひとつでもいい。

地元に戻ってから、アクションを。



4. 自地域の取組みの課題と今後の焦点の 整理 ～他地域情報を活かして

新しい発想・視点・方向性で考えよう

本人 **発症** **本人が地域でよりよく暮らし続ける** **最期**

市
区
町
村

＜本人が暮らす流れにそって＞
地域にある資源をひたすらつなぎ、
本人が暮らす流れを支える体制をつくっていく・

都道府県：各市町村が進めるようにバックアップ、環境整備

国
の
施
策
の
柱

1. (各市町村が独自に) 認知症ケアパスの作成・普及

2. 早期診断・早期対応(総合的)

3. 「**地域での生活を支える**」医療サービスの構築

4. 「**地域での生活を支える**」介護サービスの構築

5. 「**地域での日常生活**」・家族の支援の強化

6. 若年性認知症施策の強化

7. 医療・介護サービスを担う人材の育成

ライフサポート(生活支援)を協働で行う人材を育てる

新しい発想・視点・方向性に転換しないまま取組んでも たくさんの努力・苦勞をしても実を結ばない

旧い発想・視点・方向性

支援の発想・支援者の視点
問題重視

一部の関係者が支援してあげる

当事者にとっての成果がでない
⇒無力感、取組んで楽しくない
⇒理解者・協働者が広がらない
⇒一部に負担がかかり疲弊
⇒地域支援体制がいつまでも育たない

新しい発想・視点・方向性

生活の発想・当事者の視点
可能性重視

地域の中でともに支えあう

当事者にとっての成果がでる
⇒達成感、取組んでいて楽しい
⇒理解者・協働者が広がる
⇒負担を分かち合い、楽になる
⇒実質的な地域支援体制が
一歩一歩育つ

* 行政担当者・関係者が、発想・視点・方向性を変えないと
住民・介護家族、専門職等が変わらない、**変われない。**

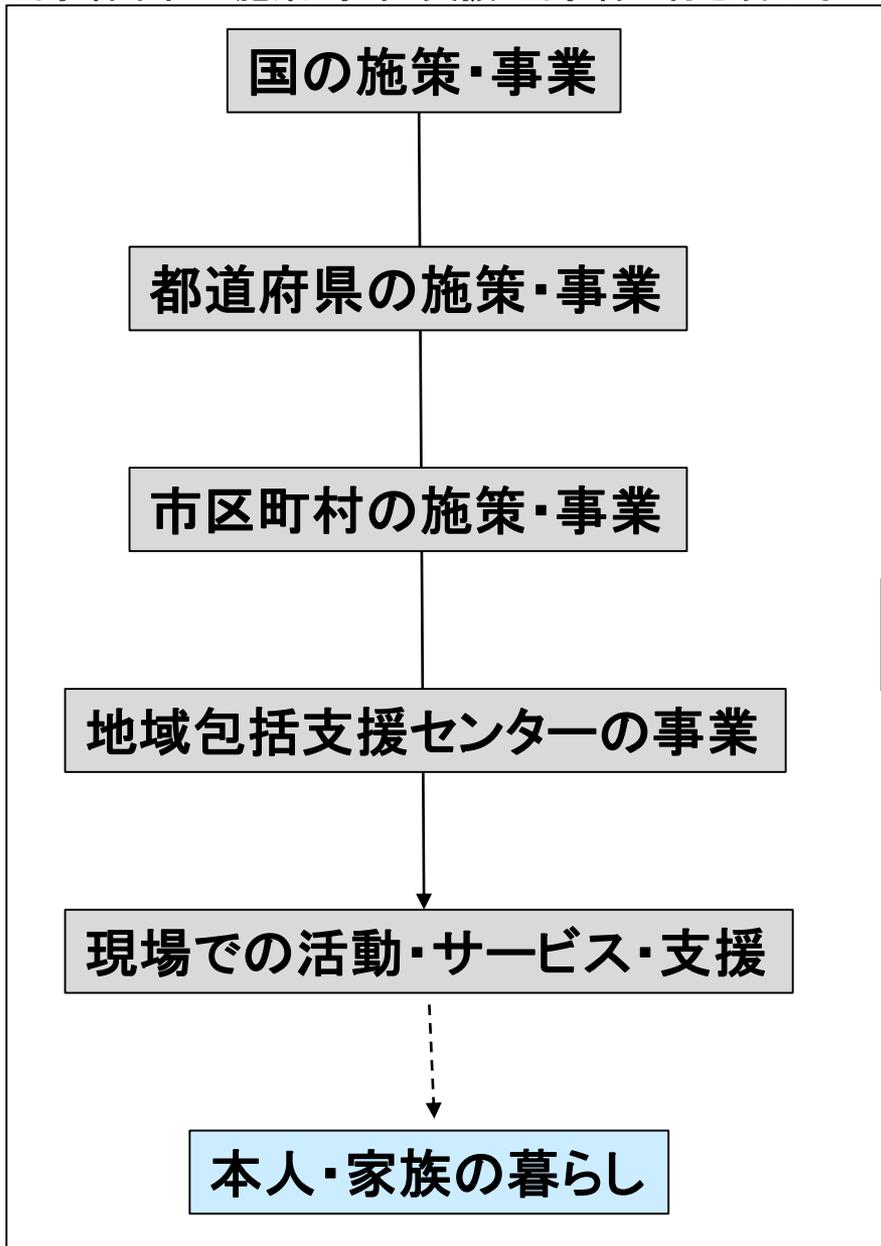
***あなたが、(揺らがない)チェンジメーカーに！**



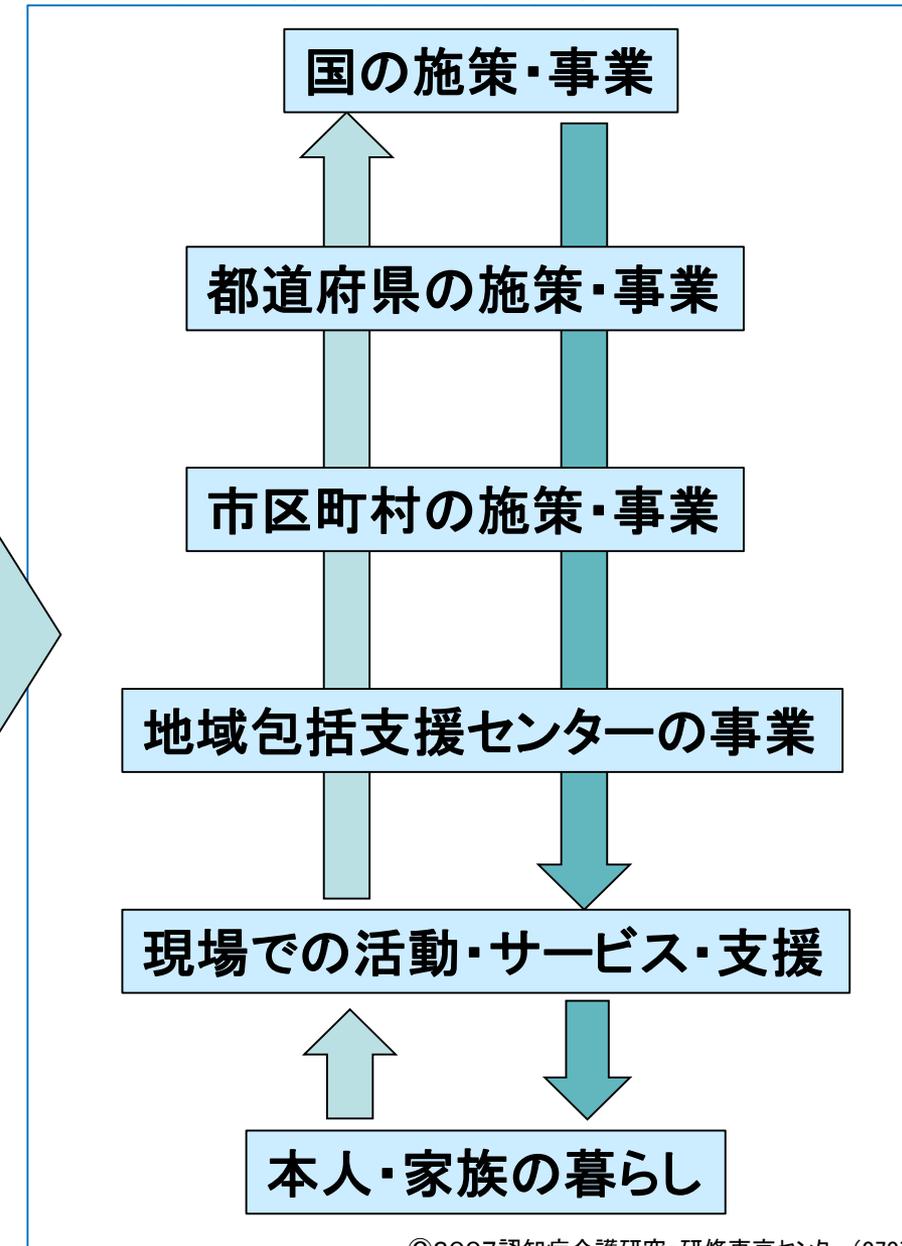
**認知症になっても、本人の底力はすごい。
当事者が暮らす地域の底力はすごい。**

起点は当事者、ゴールも当事者

当事者不在の施策・事業・支援: 当事者に行き届かない



当事者起点の事業・支援: 当事者に行き届く



1) 1日目の情報を自地域の取組みに活かそう！

*まずは、自分で
昨日の報告やグループワークの情報をもとに
整理してみよう

10時50分まで

①自地域の地域支援体制づくりに活かしたい他地域の
発想や方策は…

②自地域の取組みの課題、注力すべき点は

自分自身の発想・視点、方向性を刷新しながら

5. 認知症の当事者を地域ぐるみで支える体制を
持続的かつ確実に築いていくための自治体と
しての全体構想と企画、取組みの展開

初期から最期まで地域でよりよく暮らすために

国立市健康福祉部
地域包括ケア推進担当課

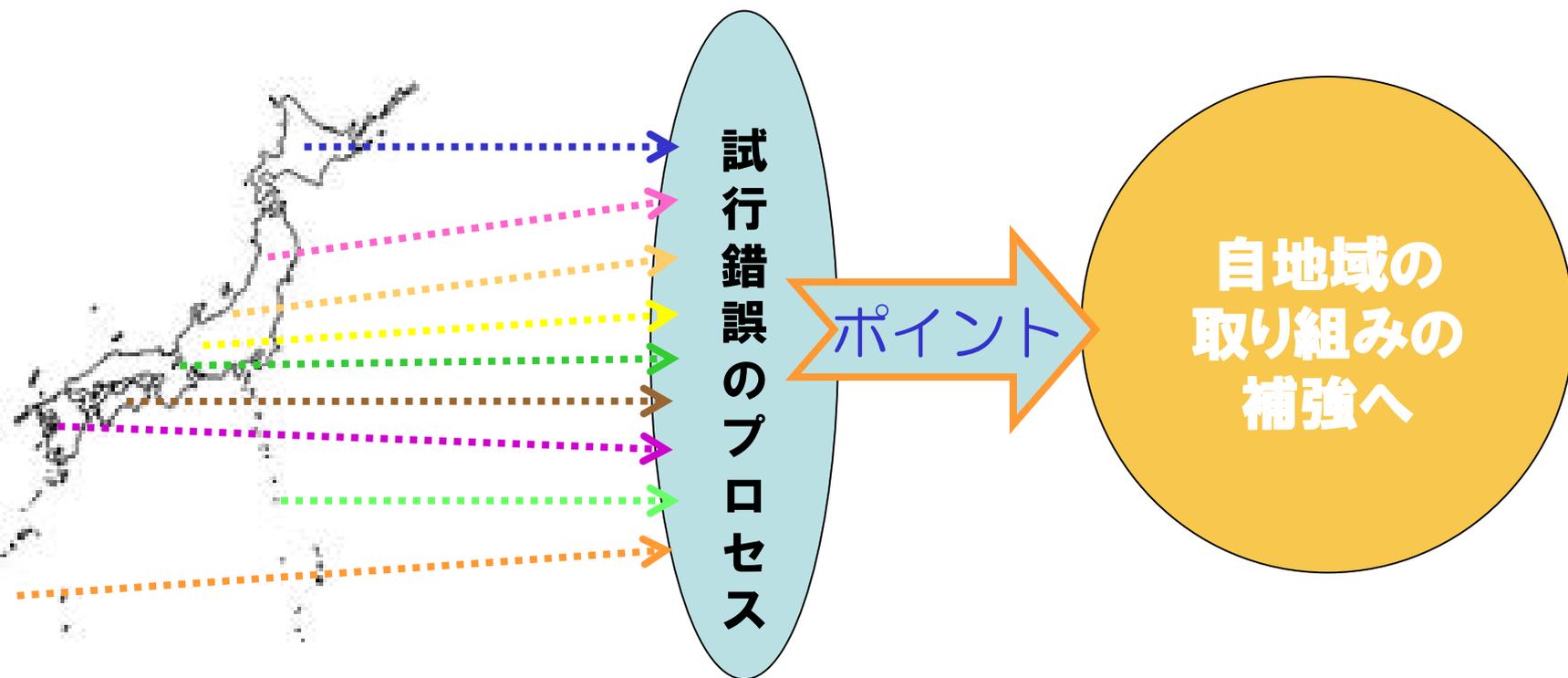
大川 潤一 さん

* ワークシート2-5も、ご活用ください。

6. 26年度前半の時期に自治体担当者が やるべきこと・できることは何か

全国各地の取組み事例をもとにした情報提供

全国各地の取組み事例をもとにした情報提供



7. 自地域の課題、特徴に根差した取組みの 補強策を具体化しよう

全国各地の取組み事例をもとにした情報提供
～参加者のみなさんから～

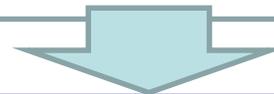
*まずは、自分で
報告やグループワークの情報をもとに
整理してみよう

①自地域の事業や取組み上の課題を解決していくために、
自地域に必要なだと思うこと

*1点でいいから、より具体的に
漠然としたことではなく、
どういう人たちが、
どういう場面・機会に、
どのようなことが必要

②自地域で必要なことを補強していきために、
取組んでみたいこと、やってみみたいこと（具体的に）

③そのためにつなげたい（つながりたい）
人・組織・事業など



行政担当者・県警者ならでの立場・つながりを大事に

参考

当事者の声より

- 何が求められているか
- 何を地域で進めていけばいいか

* 具体的な手がかりは
地元で暮らす当事者の声の中に・・・

●できないことばかりを見ないで。できることを大事にして。

●テストや質問されると、どっと落ち込む。

●わたしという人間を、ちっともわかってもらえてない。悲しい。くやしい。口もききたくない。だからだまってしまおうんです。

●できないことばかりを見られると、立ちあがれなくなる

●病気やできないことを考えると、本人も周りも落ち込んでしまう。

日々、まだできることを大事に、もっとお互い、楽しく、充実した人生を送ろうではありませんか。

●わたしが好きなことを、できるように、助けてほしい。

●みなさん、いろいろよかれと思っていってくださいますが・・・。
気の進まないことは、とってもストレス。
残された時間は、好きなことに使いたい。

●自分でやれると、まだまだ自分はだいじょうぶって
ものすごく安心できます。

●ひとつ、ひとつ、いっしょにやってもらえると
ありがたい。
いっしょにやってもらおうと、けっこうできる！
できるとうれしい！そのあと（の時間を）調子よくすごせる。

●日々、小さいことでも、自分がやり遂げられるように助けて、
力づけて下さい。前向きになれるように。

●わたし抜きに決めないでほしい。

- 認知症の医療とか、ケアとかいうけど、本人が何に困っているか、どうしてほしいかを聴かないで、なんでやれるんですかね？

わたしは中小企業で働いてきましたが
お客さんの声を大事にするのはあたりまえ。
この業界(医療、介護)は、恐ろしく時代遅れ…。

- みなさんには本当に感謝してます。
でも…自己満足では…。
- 考えるのは難しい。でも選択肢をわかりやすく伝えてくれれば、わたしなりに、わかります。
- これでいいか、わたしにきいて…。
- わたしだったらどう選ぶか、みんなで考えて。

●異常に見える言動は人としてあたり前のことをおさえつけられているから。

●自分は蚊帳の外…。
こんな扱いをされたら、だれだって怒りたくなるでしょ。

●やりたいことを自由にやらせてもらえない、
外に出ようとするのを止められる、
やりたくないことをやらされる
…毎日がストレスでいっぱい、いらだってしまう…。

●わたしたちなりの理由や意味があるんです。
症状とみなすまえに、なぜそうしたふるまいをするかよくみてください。

● 認知症だけをみないで！わたしをよくみて！

● 認知症患者・・・嫌な言葉・・・。

● わたしは認知症ですが、それだけで生きてるわけではありません。

● 認知症といっても、病気が違う、毎日が違う、願いが違う。一人一人がちがうということを知ってほしい。

● 目の前にいるわたしが、
これまでどんな人生を送ってきたのか、
これからの時間をどのように生き、
どう旅立っていきたいと願っているか、
そのことを聴いてほしい。

●これからの一日一日を精一杯、暮らしたい。

●認知症になったことは、本当に無念。
でも落ち込んでいても始まらない。
家族のためにも、一日でも長く、自分でしっかりと暮らしていきたい。

●診断を受けて、家族と泣き崩れました。
そして決めました。
残された一日一日、一瞬一瞬を大切に暮らそうと。

●楽しみたい！働きたい！心豊かに暮らしたい！
ささやかな願いを聴いてほしい。

9. 全体での情報・意見交換 ～今後の取組みの焦点、アイデア～

「認知症」を通じて、人として大切なことやつながりが広がります。すべての人が暮らしやすい町に近づいていきます。

☆これから、自分が何をしていくか。

- ・一人の人、地域の可能性に光をあてながら**
- ・あたりまえのことを大切に**
- ・一人ではなく、地域の多様な人と共に**
- ・無理をしないうで。(小さな)できることから、息長く**



2日間、お疲れさまでした！

今回のセミナーをひとつのきっかけにして
あなたの地元で、

めざしたい地域の姿にむけて

あなたが（小さな）アクションをおこしてください。
伝える、話しあう、できることから一緒に。

これからも

全国の他の地域で悩みながらも前に進んでいる
仲間とつながり続けてください。

また、お会いできるのを楽しみに！

☆第2回合同セミナー：10月2日～3日です。